

教科名		児童の実態(現状の課題)	具体的な改善のための方策
国語	教科の課題	【書く力】 ・事柄の順序に沿って簡単な構成で書くことがおおむねできるが、語と語や文と文の続き方に間違いが多く、つながりのある文章を書くことが難しい。 【読む力】 ・物語教材の気持ちの読み取りが難しい児童が見られる。 【考えの表現】 ・自分の気持ちや考えに自信をもって話すことに課題がある。	【書く力】 ・「行動したこと」「話したこと」「自分以外の人の動き」「自分が感じたこと」などを分けて書き、文章化していく習慣を付ける。文章を読み返す習慣を付け、間違いに気付くようにする。 ・学力向上タイムでは、既習の漢字学習プリントに取り組み正しい漢字を書けるようにする。 【読む力】 ・読み取りの話し合いの時間に児童の実体験を挙げながら、読みを深めていく。 【考えの表現】 ・ペア学習で感想を伝え合うことを多く取り入れ、発表できる機会を増やしていく。
	言語能力育成のための工夫	【言語能力】 ・知らない言葉をそのままにしてしまう児童が見られる。気持ちや様子を表す言葉が少ない。	【言語能力】 ・文章の読み取りの際には、知らない言葉の確認をする。 ・読書量を増やし、語彙を増やす。教室で様々な本を読めるように、月に2～3回程度、学級文庫を入れ替える。
算数	教科の課題	【計算力】 ・繰り上がり、繰り下がりの習熟が必要な児童が見られる。 【思考・判断・表現】 ・場面の理解と立式が確実にできていない児童がいる。 ・数のしくみの捉え方、時間や単位計算が難しい。 ・どのような方法で自分の考えを示したらよいか、難しい児童が数人いる。	【計算力】 ・家庭学習にも組み込み、繰り返し練習し、確実な計算力を付ける。 ・学力向上タイムでは、繰り下がり繰り上がりの計算プリントに繰り返し取り組んでいる。 【思考・判断・表現】 ・じっくりと場面把握をさせるために、場面について話をさせたり、具体物を操作させたりすることを大切に授業を組み立てる。 ・数直線の理解を深め、視覚的に伝えていく。実生活でも活用しながら慣れさせていく。 ・発表するときを使う言葉をいくつか提示し、それを生かした発表の仕方を促していく。
	生活	【友達との交流】 ・1年生と直接関わったり、友達とグループで活動したり話し合ったりする活動が現状難しく、交流をする機会が少ないことが課題である。 【探究的な活動・児童相互の関わり】 ・見たこと、感じたこと、聞いたことなどを事後にワークシートなどでまとめる学習が中心となっていたので、児童相互の学び合いの場が少なかった。	【友達との交流】 ・近隣の町や社会に目を向けさせ、町で働く人々の姿やその人たちの仕事の工夫などに興味や関心をもたせるようにする。その中で、自分が知りたいことや調べてみたいことをもとに学習活動を展開させていく。 【探究的な活動・児童相互の関わり】 ・「見る」「聞く」「知る」「体験する」を土台として、自分の関心・興味を基にした探究活動をしながらか友達との交流も大切に活動させていく。
音楽	教科の課題	【表現の創意工夫】 ・友達の声や伴奏を聴きながら、歌唱したり演奏したりすることはできてきたが、思いをのせて表現することは難しい。 【表現の技能】 ・歌唱の際の口の開け方や、鍵盤ハーモニカの指使いやタンギングの技術など、感染症防止のために積み重ねができずにいる。	【表現の創意工夫】 ・自分のイメージするものを大切にしながら、交流し合い、曲調を考えながら演奏できるようにしていく。 【表現の技能】 ・口の開け方や立ち方を視覚的に示したりや、鍵盤ハーモニカの指の動かし方などを段階を追って進めたりしていく。
	図工	【基本的な技能】 ・線に沿ってハサミで紙を切る、適量を考えて糊を使う、絵の具の分量を考える、端を揃えて紙を折るなど丁寧さや正確性に課題がある。 【鑑賞】 ・友達の作品を見て、「上手」や「いいね」などつぶやくことはあるが、じっくりと友達の作品を見て感想をもつ場が設定できていない。	【基本的な技能】 ・書画カメラを用いて、紙の角を合わせて折る、糊の分量を見せる、などの作業を視覚的に提示し、取り組ませる。 【鑑賞】 ・友達の作品や共同作品をじっくりと鑑賞し、よいと思う点や作者の工夫点などを交流できる場や時間を作る。
体育	教科の課題	【基本的な運動】 ・固定施設を使った運動にチャレンジしてきたが、自分の体を支えることが難しい児童がいる。 【体力】 ・45分間の座学に耐えられる姿勢保持ができていない児童がいる。 【学び合い】 ・友達の動きのよさを見付けることが難しい児童が多い。	【基本的な運動】 ・準備運動の中に、体を支える筋力を培う動きを取り入れて、体の部位を意識させて取り組ませる。 【体力】 ・コアディネーショントレーニングに取り組んだり、瞬発力、腹筋背筋を鍛える運動を盛り込む。 ・児童がすすんで運動に取り組めるように、自ら工夫し発展できるような基礎を教師が示す。 【学び合い】 ・感染症防止対策をしながら、小集団で技の高め合いをしていく。その場に適した声かけの仕方を上げていく。
	道徳	【人権感覚】 ・様々な友達が一緒に仲良く生活するために、自分の行動を振り返り、誰にでも優しい気持ちをもって生活するのが難しい児童がいる。 【思考力】 ・発問や質問に対して、素直に自分の思いを交流したり、発表だけにとどまらず、自分の考えを広げたり深めたりすることは難しい。	【人権感覚】 ・クラスの中で、気持ちのよい行い、うれしかった行いを取り上げ、よい行いを共有し、友達のよさを認め合う学級づくりをする。 【思考力】 ・話すこと、書くことによって、自分の考えを整理したり、深めたりする。ワークシートでは、自分の気付きも加えて、書くことができるようにする。
学びに向かう力等を育むための方策		・学んできたことを生かして、次の学習課題に取り組もうとする児童が少ない。自信がもてずに、あきらめてしまったり、友達の様子をうかがったりする児童がいる。	・プログラミング学習で学んだことも生かしながから、順序よくやること、スモールステップを示すことで、自らの学びを深め、できることの楽しさを繰り返し味わわせる。ICTを活用する場面を増やして、創造力や主体性を育てていく。